

暖房器具を
正しく使う

正しく使う

これから冬に向かつてだんだんと気温が低くなり、暖房器具が必要な季節になってきます。暖房器具を安全に使用するには、点検が重要です。点検を怠るとホコリが原因で火災が起きたり、異常燃焼による一酸化炭素中毒を引き起こしたりする可能性があります。

石油ストーブ

給油タンクの給油口に錆・変形・破損などがいないか確認しましょう。また、本体などから油漏れやにじみがないか確認し、よく絞った柔らかい布で本体などに付着したホコリなどを清掃しましょう。本体に古い灯油が残っている場合は、灯油は抜き取りましょう。

ファンヒーター

本体が冷えていることと電源プラグがコンセントに差し込まれていないことを確認してから、本体、温風吹出口などを掃除します。ホコリなどは掃除機で吸い取り、油や汚れなどは乾いた柔らかい布でふき取ります。石油ファンヒーターの場合は、石油ストーブと同様のお手入れをし、ガスファンヒーターの場合は、ガスホースにひび割れなどがいないかをチェックしましょう。その他、電気ストーブや電気コタツなどもホコリはよく取り除いてから使用しましょう。

火災事例から学ぶ暖房器具火災を防ぐポイント



事例1

ストーブに布団が接触して出火

電気ストーブを点けたまま寝込んでしまい、掛けていた布団がストーブに接触し出火した。

★注意事項

- 寝るとき、外出するときにはスイッチを切る習慣をつけましょう。
- 長期間使用しないときはコンセントを抜き、収納時は電池を抜きましょう。

事例2

使用中にストーブに給油したことから出火

反射式ストーブを消火しないままカートリッジタンクに補給し、口金を完全に締め付けられないままストーブにセットしたため、口金が外れ漏れた灯油に着火し出火した。

★注意事項

- 給油するときは、必ず消火し、火が消えたのを確認してから行いましょう。
- カートリッジタンクの口金は確実に閉めましょう。

事例3

ストーブに衣類が接触して出火

衣類を乾かそうと、ストーブ上に洗濯物を吊るして置いたところストーブに落下し出火した。

★注意事項

- ストーブの上で洗濯物を乾かすと、落下する恐れがあるので絶対にやめましょう。
- カーテンや衣類・布団などの側で使用すると、暖房器具に接触する恐れがあります。

※いずれの暖房器具も、構造が違いますので取扱説明書をよく読んでお手入れをしてください。使用中異常が発生したら販売店やメーカーに相談しましょう。また、暖房器具を使用する前には必ず点検をし、古くなった灯油は使用しないようにしてください。

● ● 美和支団・自動車ポンプの部・小型ポンプの部ともアベック優勝！ ● ●

第59回茨城県消防ポンプ操法大会県北地区大会が、平成20年10月5日に日立市に於いて開催されました。

常陸大宮市からは代表として常陸大宮消防団美和支団が自動車ポンプの部（6分団）、小型ポンプの部（3分団）の両部門に出場し、見事アベック優勝を果たしました。

優勝した両分団が出場する自治体消防発足60周年を記念した茨城県大会は平成20年11月15日です。

